



■目指せ新記録 ～小学校陸上記録会～

10月11日(木)に大崎小学校で「大崎町小学校陸上記録会」が開催され、町内6小学校の5・6年生が参加し、日頃の練習の成果を競い合いました。

開会式では、野方小学校6年生の川崎 翔斗^{かわさき しょうと}さんと佐土原 暖大^{さどはら ぬうた}さんが力強く選手宣誓を行いました。競技は、短・中距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びなどが行われました。時に小雨が降る寒い中でしたが、子どもたちはそれぞれの出場種目で、精一杯力を発揮していました。



当日は、保護者をはじめ多くの方が応援に駆けつけ、子どもたちに大きな声援を送っていました。出場した子どもたちは「自分のベストが出た。」と笑顔で話すなど、スポーツの秋にふさわしい陸上記録会となりました。



僕の夢 私の夢

『難民を笑顔にできるユニセフ職員に』

No.33

持留小学校 6年 岡元 美華

私の将来の夢は、ユニセフの職員になって難民を助けることだ。私がユニセフの職員になろうと思ったきっかけは、ユニセフのコマーシャルを見たことだ。そのコマーシャルには、重度の栄養失調の子どもが映っていた。中には腕回りが9センチメートルしかない子どももいた。そんな子どもたちの姿を見て、私は何とかしてこの子どもたちを助けたいと思った。そのために、ユニセフの職員になって、私にできることをしていきたいと思った。

しかし、この子どもたちを助けることは容易ではない。もしかしたら、自分も紛争に巻き込まれて、命を落としてしまうかもしれない。時には自分の目の前で、その子どもたちが亡くなるのを見るかもしれない。でも、何の罪もない子どもが争いに巻き込まれたり、栄養失調になったりして命を落としていくのを黙って見ていることはできない。私ができることをして、1人でも多くの命を助けたい。

マザー・テレサは、学校の窓から見える貧しい人々を見て、教師をやめ、捨てられた赤ちゃんのための施設をつくったり、1度もお風呂に入ったことがない人の体を洗ってあげたりしていたという。マザー・テレサのようにとまではいなくても、少しでも多くの子どもたちを助けたい。そして、笑うことすらできない日々を送っている子どもたちを、笑顔にしてあげられるユニセフの職員になりたい。